

**思考・判断・表現に関する評価規準表（入学年次）**

A評価	B→A評価への手立て	B評価（例示）	C→B評価への手立て	C評価
自己や仲間の合理的な動きについて、観察結果や根拠を明確にし、成果や改善点を整理してわかりやすく他者に伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の動きの比較ポイント（スピード、タイミング、安定性など）を整理したチェックリストを用いて分析させる</li> <li>・伝える際に、図やスロー映像、言葉を組み合わせて、他者が理解しやすいよう工夫することを助言する</li> </ul>	選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本動画と自身の映像を並べて見せ、動作の違いを客観的に把握させる</li> <li>・動きの目的や意図（例：ラケット面の角度、フットワークのタイミングなど）を指導者が明示する</li> </ul>	自己や仲間の動きを十分に比較できていおらず、成果や課題の理由が曖昧で、正確に伝えられていない。
技術的課題や戦術的課題に対して、効果的な練習方法や作戦を多面的に検討し、具体的な理由を添えて他者に共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えた練習方法が課題解決にどうつながるかを理由づけさせる</li> <li>・他の練習方法と比較し、選択の妥当性を言語化させる</li> </ul>	自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各練習方法の目的と適用場面（攻守・前衛後衛など）を提示する</li> <li>・チームで共有した課題から個別の練習方法と一緒に選ばせる</li> </ul>	自己や仲間の技術的な課題を把握できていおらず、選んだ練習方法が課題解決につながっていないかったり、根拠が不明確であったりする。
選択した運動の課題や目的に応じた準備運動・補助運動を、自他の状態に応じて適切に選び、その意図を明確にして仲間と共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ補助運動の理由を言語化させ、活動中に仲間に伝える場面を設ける</li> <li>・競技特性と個人課題の関係から、準備運動の選択する</li> </ul>	選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動の目的（筋肉部位、関節可動域等）を図や動画で示し、適切な選択につなげる</li> <li>・不適切な例も併せて提示して比較する</li> </ul>	選択した運動に必要な準備運動や補助運動を適切に選べておらず、運動の目的と関連づけて選択することができていない。
気象や体調の変化に応じて練習内容や強度を調整し、その判断理由を具体的に振り返ったうえで、他者にも助言している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習内容と健康・安全配慮の関連を具体化させる（例：暑熱環境での練習時間の工夫）</li> <li>・他者の安全にも配慮する行動（声かけ、配置調整等）を実践させ、共有する</li> </ul>	健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習法について振り返っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定される危険場面のシミュレーション動画を見せ、効果的な予防策を考えさせる</li> <li>・体調・気温・湿度などの条件変化に応じた練習内容の調整例を提示する</li> </ul>	体調や環境への配慮が不十分で、練習の方法に活かすことができていなかったり、安全確保の意識が低かたりする。
勝敗にかかわらず、相手やチームに敬意をもって関わり、マナーやフェアプレイの価値を具体的な行動や言動で示している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面ごとのマナー判断ワーク（ロールプレイなど）を行い、自己的行動の振り返りを深める</li> <li>・よい実践を見付け、チーム内で仲間に伝える活動を取り入れる</li> </ul>	ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェアプレイの映像や具体的な行動例を紹介し、自分の行動と照らし合わせる</li> <li>・勝敗の受け止め方に関する簡単な振り返りシートを実施する</li> </ul>	ルールを守る意識やマナーが不足しており、勝敗や他者への配慮に対する姿勢が不十分である。
チームの中での自分の役割を確に把握し、仲間と協力して役割を遂行・改善しながら、チームの成果に積極的に貢献している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割遂行の改善点をふまえ、次の実践で試したことを報告・共有させる</li> <li>・他者の振り返りも共有し、よりよい方法を模索する習慣をつくる</li> </ul>	チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各役割に求められる具体的な行動を示し、例を交えて理解させる</li> <li>・活動記録シートに自己の動きや課題を記入させ、可視化する</li> </ul>	自分の役割を十分に理解できていおらず、活動の成果や課題を振り返ることができていない。
話し合いの場面で仲間の意見に耳を傾けながら、自分の考えを根拠を挙げて論理的に伝え、合意形成に積極的に貢献している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜそのような発言・対応をしたのか」の理由づけを求める活動を取り入れる</li> <li>・複数の立場・視点から合意形成を試みるシミュレーションを行う</li> </ul>	作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いのモデル動画を提示し、関わり方を観察させる</li> <li>・会話テンプレートや『発言の型』を配布して発言しやすい環境を整える</li> </ul>	話し合いに消極的で、合意形成に必要な発言や協力ができないおらず、チームへの関わりが不十分である。
チームの多様な特性（技能、性別、体力など）を踏まえ、全員が楽しめる活動となるよう、進んで提案・調整を行い、それを他者に提案・共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで活動方法を修正し、仲間が楽しめる方法を考え、実践・共有させる</li> <li>・多様性への配慮行動を見付け、記録・振り返りをさせる活動を行う</li> </ul>	体力や技能の程度、性別の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力差や技能差によって起こりうるトラブルや不快感の例を提示し、対応を考えさせる</li> <li>・ルールや練習方法の調整例を紹介し、適用させる</li> </ul>	仲間の違いに対する配慮が不十分で、活動方法の工夫や修正を見付けることができない。
球技の学習成果を生かして、自らの興味・関心に応じた運動との関わり方を比較・検討し、「する・みる・支える・知る」の視点で具体的に実際に移そうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある関わりについて情報収集させ、実際に関わる場面を設定する</li> <li>・関わり方の選択理由や期待する効果をプレゼンテーションさせる</li> </ul>	球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する・みる・支える・知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の「する・みる・支える・知る」活動例を紹介し、興味を持てるものを選ばせる</li> <li>・過去の体験や地域スポーツとのつながりを整理させるワークを行う</li> </ul>	学習成果を今後の生活や運動習慣に生かす視点が十分にできていない。

思考・判断・表現に関する評価規準表（入学年次の次の年次）

A評価	B→A評価への手立て	B評価（例示）	C→B評価への手立て	C評価
自己やチームの動きを客観的に観察・分析し、根拠を示しながら具体的かつわかりやすく改善点や良さを伝えている。	・動きの特徴を図やモデルで示し、視覚的にもわかりやすく伝える練習をさせる	選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。	・手本の動きと自分や仲間の動きを比較し、違いや特徴を記録させる ・動きのチェックリスト（姿勢・タイミング・位置等）を活用し、観察視点を明確にする	動きの良し悪しに気づいているものの、具体的な分析や根拠が曖昧で、適切に伝えることができていない。
試合や練習の状況を的確に捉え、根拠とともにチームや自己の技術・戦術的な課題を発見し、共有している。	・発見した課題の原因を分析させ、次のプレーや練習への活用法を考えさせる ・課題をチーム全体に共有し、他者に伝える力を養う	課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。	・チーム練習の映像やスコアから具体的な課題を探す活動をする ・課題と練習メニューを結びつけるシートを活用する	課題の発見に根拠や具体性が乏しく、共有や改善に結びついていない。
課題解決のために有効な練習計画を立案し、練習方法や順序を明確にした上で実践・共有している。	・練習メニューの意図やねらいを仲間に説明させる ・練習の効果検証（ビフォーアフター映像比較など）を通じて、改善案まで考えさせる	チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。	・課題に対して複数の練習方法を提示し、それぞれのねらいや効果を比較・検討させる ・「いつ・誰が・どうする」まで明確にさせる計画表を活用する	練習計画が曖昧で、課題に適した内容を自ら選び取ることができない。
チームや自己の安全を守るために、状況を的確に把握して適切な行動を提案・実行し、仲間にも助言している。	・体調や天候に合わせて練習の強度や内容を柔軟に調整させ、その判断理由を言語化させる ・仲間に對して安全に配慮した行動を提案する場を設ける	練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。	・練習中に起こりうる危険（転倒、接触など）を写真や事例で提示し、その回避策を考えさせる ・安全視点カードを活用する	危険に気づけなかったり、適切な対処ができない、安全確保の行動が不十分である。
自他の行動を振り返り、それがなぜ適切または不適切であったかを具体的に言語化し、改善点を他者に伝えている。	・自身や仲間の行動を記録し、なぜその行動がよかったか、具体的に言語化させる ・他者に伝える場面（チームの振り返り発表）を設ける	練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。	・試合映像からフェアな行動やよくない行動を見付けさせ、理由を考えさせる ・チームで「よいマナー行動リスト」を作成し、共有する	自他の行動の良否に気づけなかったり、マナーの重要性を振り返る視点を持てていない。
状況に応じて自他の役割を的確に捉え、チームの目的達成に向けて積極的に提案・実行している。	・状況に応じて他者の役割との調整や提案ができるように、役割分担会議やふりかえリシートを導入する ・なぜこの役割がチームに必要かを発表させる	チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。	・さまざまなチーム内の役割（声かけ、進行、分析など）の例を提示し、自分に合った役割を選ばせる ・役割ごとの具体的な活動例を観察・模倣させる	与えられた役割を十分に理解・実行できなかったり、状況に応じた提案ができていない。
チームの意見を尊重しながら、自分の考えを明確に伝え、全員が納得できるように話し合いをリードしている。	・対立意見が出たときの調整方法（妥協点の探し方、代替案提示）をロールプレイで練習させる ・合意に至るまでのプロセスをふりかえりで言語化させる	チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。	・話し合いの進め方（話す順序、意見のまとめ方）をモデル提示する ・意見を整理するカードなどを使い、可視化させる	話し合いでの意見を述べることが難しく、合意形成に向けた調整ができていない。
メンバーの特性や状況に応じて、誰もが楽しめるような活動の工夫やルールの調整を提案・実践している。	・実践した調整の効果を振り返り、さらに良くするにはどうするか考えさせる ・配慮の工夫を他チームに紹介・共有させる	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。	・活動時の体格・技術差を具体的に提示し、どのような困りごとが起きるかを考えさせる ・ルール調整の実例を提示し、自分たちでルールを工夫させる	活動の中で仲間の違いに気づかず、自分中心の関わりとなっており、調整の工夫が見られない。
球技で得た学びを、自分の将来や生活と結び付け、具体的に「する・みる・支える・知る」の実践方法を描いている。	・自分の関心のある関わり方をより具体化させ、将来の関わり方を発表させる ・地域スポーツや職業人インタビューを通じてアリティをもたらせる	球技の学習成果を踏まえて、事故に遭した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむためのかかわり方を見付けている。	・「する、みる、支える、知る」のそれぞれの関わり方の事例を示し、自分に合ったものを選ばせる ・将来の生活とスポーツを結びつけるワークシートを活用する	学習成果を日常や将来の運動に活かす視点が乏しく、「関わり方」を自分事として捉えられていない。